

第1回 薬剤師のキャリアパスに関する懇談会 主なご意見

1. Pharmacist-scientist について

- Pharmacist-scientist は、単に研究を行う薬剤師や学位取得者を指すものではなく、科学的根拠に基づいて課題を分析し、実践できる薬剤師全体を含む概念として捉えるべき。
- Pharmacist と Scientist のいずれも一定水準で満たしていることが前提だが、地域や社会のニーズに対して臨床から創薬研究まで多様な人材像を包含する概念として考えるべき。

2. 創薬人材・研究人材の育成の必要性

- 創薬は探索研究から治験・承認まで多様な専門職が関与するため、それぞれの段階で創薬に関与できる人材が必要。
- 臨床経験を持ちながら創薬・医薬品開発に関与できる人材の育成が重要。
- 現職薬剤師が創薬力を身につけるための研修を充実させることも必要。
- 創薬に直結する人材だけでなく、新たな医療や健康づくりの仕組みを創出できる人材も必要。

3. 大学教育におけるキャリア形成支援

- 薬剤師に求められる役割の多様化を踏まえ、多様な教育プログラムが必要。
- 臨床と研究の双方の基盤となる能力の育成を重視すべき。
- 臨床研究、治験、レギュラトリーサイエンスなどの教育機会を拡充する必要がある
- 博士課程進学者の確保や研究人材育成も課題。
- 薬剤師養成を一律のモデルで考えるのではなく、多様な能力・志向に応じた人材育成が必要である。



1. ～3. の内容については、本日の議論を予定

4. 卒後臨床研修の位置付け

- 卒後臨床研修は、全国共通の標準的な薬剤師としての基盤形成に重要。
- 単独施設だけでなく、地域や複数施設で薬剤師を育成する視点が必要。
- 卒後臨床研修と専門薬剤師制度との接続が重要。

5. 専門薬剤師制度の質保証

- 現状の専門薬剤師制度は名称や認定基準が多様であり、国民にとって分かりにくい面があり、専門性の質保証を行う第三者機関が必要。
- 将来的なキャリアパスの中で、専門薬剤師の位置付けの整理が必要。

6. キャリア形成と評価・処遇

- 薬剤師が研修へ参加しやすい環境整備や生活保障への配慮も必要であるが、研修制度や資格制度を整備するだけではなく、取得後の評価や処遇まで視野に入れることが必要。
- 専門性が適切に評価される仕組みがなければ、優秀な人材確保は困難。
- 病院、薬局だけでなく、企業、研究機関、行政などを含めた幅広いキャリアパスを整理すべき。



4. ～6. は次回以降に議論を予定